

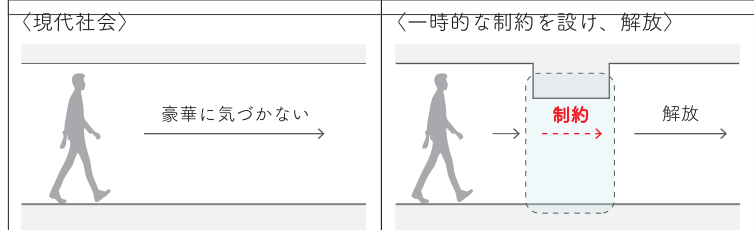
制約をほく家

現代社会の効率と便利さの追求には終わりがなく、人々は知らぬ間に制約のない環境に慣れ、豊かさを感じにくくなっている。そこで、健常者には「制約を設けることで得られる解放」、身体不自由者には「制約からの解放」という異なる視点から、制約を超えて心身がのびやかに存在できる空間を考える。

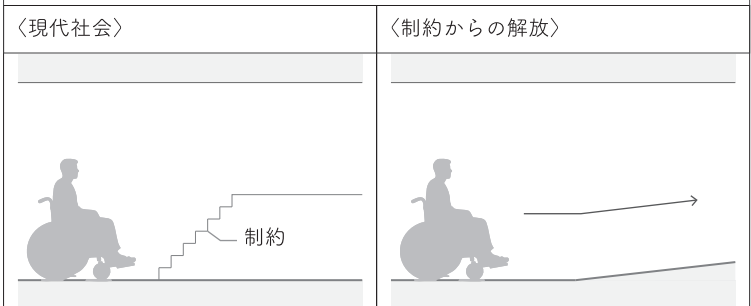
01 定義 健常者と身体不自由者にとっての豪華

豪華とは、「制約からの解放」である。

【健常者】
現代社会は、時間や労力の制約を取り除き、便利さを追い求めてきた。しかしすべてが容易になった世界では、手間や時間の重みが失われ、豊かさを感じにくい。だからこそ、あえて制約に身を置き、そこから解放されたとき、何気ない日常が少し特別になる。そのときは、「豪華」を感じる。



【身体不自由者】
身体に不自由を抱える人々にとって、街や建築には今も多くの制約が残る。それらを取り除き、誰もが自由に動ける環境をつくること。それは、身体の不自由からの解放であり、「豪華」そのものである。



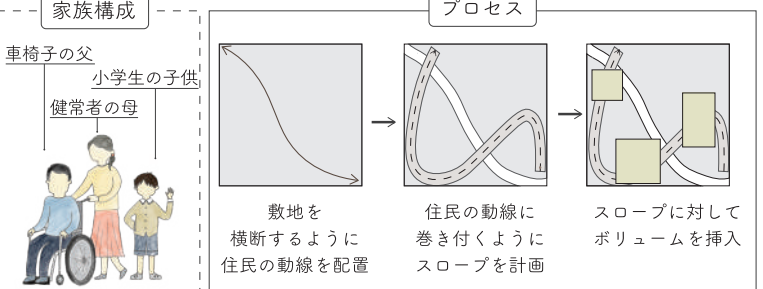
02 敷地 地域住民の交差点

敷地は東広島市のニュータウンに位置し、周辺にはテニスコートや公園、中学校がある。また、街を繋ぐ主要動線に面しており、人々の日常の風景の中に現れる場所である。



03 提案 スケールのずれが生む豊かさ

ここでは、健常者と身体障害者の双方に向けて、「制約を取り払うことで豪華さを感じ取る住宅」を提案する。**建物全体を身体障害者のスケールで計画**することで、身体障害者は快適さとしての“豪華さ”を体験する。一方、健常者にとっては**壁や床、屋根が一時的な制約として作用するが、空間が健常者のスケールへと変化**することで、制約からの解放を体験し、その瞬間に“豪華さ”を感じ取ることができる。



04 健常者と身体不自由者にとっての豪華な家

